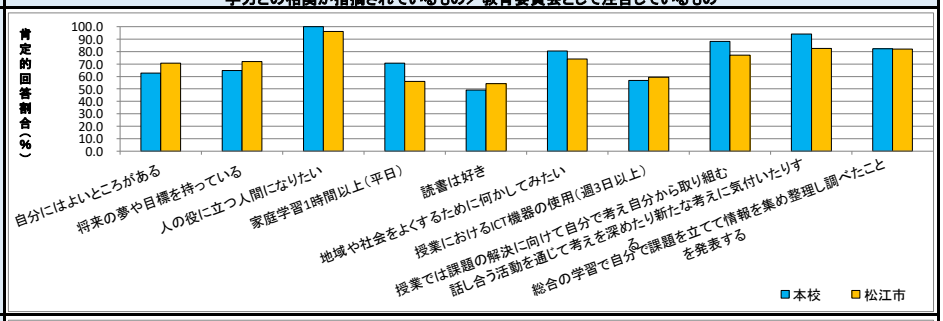
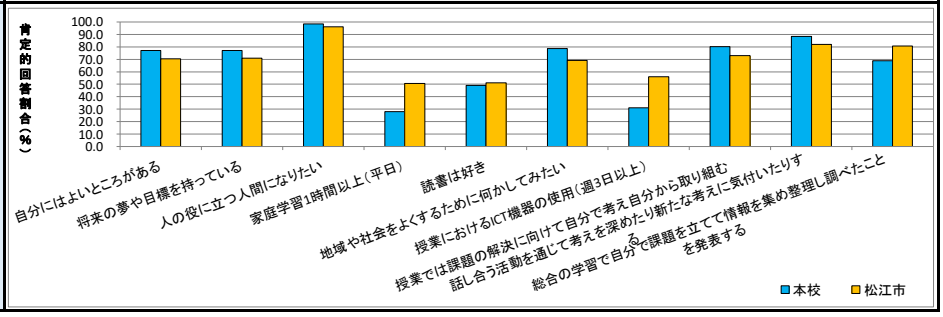
R7 松江市学力調査分析シート

【松江市立 湖北中学校 】

(1)教科調査の結果

学年	教科		分析(成果○／課題●)	改善策(・)
第1学年	国語	成果	○小学校の漢字、文章の推敲、文節の問題は正答率が高い。 ○「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」に関する事項は、市平均を上回り、概ね全国値に近い。	・文章を読んで自分の考えを表現する活動を充実させる。 ・特に話す・聞く・読むといった活動を継続的に行う。 ・登場人物の心情の変化、文章の展開などについて、文章から読み取ったことを、自分の言葉で文章にまとめなおす活動を充実させる。
		課題	●自分の考えを記述する問題の正答率が低い。 ●「話すこと聞くこと」「読むこと」に関する事項は、市平均や全国値を下回っている。	
	数学	成果	○思考・判断・表現に関する問題は推定全国値と比較してマイナスの差が小さいものが多い。 ○一次方程式については、市平均・全国値を上回っている。	・関数、図形の学習に入り、計算の問題演習時間が減ってしまったので、定期的に、計算問題に取り組む時間を設ける。 ・基礎的な内容の習得率が低いので、多くの生徒が習得できるような、指導計画を立てる。
		課題	●難易度1、2の問題、特に知識・技能の問題で正答率が80%に到達しておらず、推定全国値と比較してマイナスの差が大きい問題もある。	
	英語	成果	○英文を読んで、概要をつかむことはできている。→ 単語の意味は理解できている。 ○さまざまな英文の聞き取りについては市平均・全国値を上回った。	・英作文については、既習の文法や言語材料を用いて英作文に取り組む機会を計画的に設ける。 ・「書くこと」については、授業においても継続的なドリル練習などに取り組ませる。
		課題	●3文以上の英作文は、正答率が低くなっている。 ●「How many～」など連語があまり定着していない。	
第2学年	国語	成果	○小学校で学んだ漢字は、読み書きができる。 ○「話すこと・聞くこと」の領域において、難易度の低い問いには答えることができている。	・文法については、既習内容が定着するよう、文法の学習の始めに確認したり、学習内容を適宜テストしたりするなど、こまめに定着を図る仕組みをつくる。 ・文章の構成の理解について、学習した作品と同じ構成で書いたり、主語を入れ替えてリライトしたりする活動を充実させ、自分の表現に生かしながら身に付けさせる活動を継続して行う。
		課題	●文法に関する問いでの正答率が低い。 ●文章の構成や論の展開を理解した上で解答する問題での正答率が低い。	
	数学	成果	○「式の計算」「連立方程式」「一次関数」で市平均を上回った。特に「式の計算」は全国値と同等である。	・文章を読んで方程式をつくる活動を増やしていく。 ・1次関数のグラフから読みとれる情報について、グループで話し合う活動を充実させる。
		課題	●文章を読んで方程式をつくることの正答率が低い。 ●1次関数の変化の割合についての理解度が低い。 ●グラフから情報を読み取ることが苦手である。	
	英語	成果	○「have to～」や「be going to～」など、small talkで扱った文法項目については、並び替えの問題での正答率が高い。	・日本語でよく使う不定詞の副詞的用法では正答率が高いことに対し、あまり使わない表現の形容詞的用法では正答率が低くなっていることから、どのような場面で使う表現がを明確にして指導し、該当表現の有用感をもって学習できるようにする。 ・「書くこと」については、授業においても継続的なドリル練習などに取り組ませる。
		課題	●日本語ではあまり使わない表現(不定詞の形容詞的用法など)の正答率が低い。 ●1年生で習った文法や、「favorite」などの単語が出てくる問題の正答率が低い。	

(2)意識調査の結果

学年	学力との相関が指摘されているもの／教育委員会として注目しているもの
第1学年	
第2学年	

＜傾向と今後の対策、分析＞
成果○:強み/伸ばしたい点 について
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第1学年】
○「人の役に立つ人間になりたい」や、「地域や社会をよりよくするために何かしてみたい」という質問に対して肯定的な回答率が高い
○家庭学習1時間以上が身に付いている生徒が多い
●自分のよいところや夢や目標に関する質問の肯定的回答率が若干低い

【第2学年】
○「人の役に立つ人間になりたい」や、「地域や社会をよりよくするために何かしてみたい」という質問に対して肯定的な回答率が高い
●家庭学習習慣が身に付いていない生徒が多い
●授業におけるICT活用頻度が低い

【R7学力調査受検者数】

第1学年	54	名
第2学年	63	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示